

下衣服の着脱時における動作特性—ジーンズとジャージパンツ—

○佐藤悦子* 流合えり子* 小林茂雄**

(*上越教育大, **共立女大)

〈目的〉 衣服着脱の動作特性を明らかにするための基礎的資料を得る目的から、健常者の着脱動作を取り上げ、主にボトム服について動作実験を行い、動作過程のモデル化、所要時間および着用感との関連性について検討している。今回は、ジーンズとジャージパンツとの比較からパンツ形態の動作特性を検討した。着用感および着脱しやすさの評価内容を検討するために官能評価を行った。

〈方法〉 被験者は本学の健康な女子29名とした。実験衣は既製のジーンズ3種（シルエットの異なるデニムA, B1および同一シルエットでストレッチ素材B2）とジャージパンツCの計4タイプを設定し、着脱動作を行った。動作実験は、人工気候室（温度25℃、湿度60%RH）で行い、ビデオ撮影し着衣と脱衣の所要時間を測定した。動作終了直後、4タイプの官能評価（SD法22項目、順位法）を実施した。下肢の動作特性はビデオ観察および質問紙調査等によって検討した。

〈結果〉 1)動作の所要時間は、4タイプともに着衣>脱衣であり、 $C < B2 < B1$, Aの順であった。AとB1は、所要時間に有意差が見られなかった。2)ジーンズとジャージの着衣および脱衣の平均所要時間を比較するとジーンズは2倍以上を要していた。3)官能評価において、SD法の22項目の評価はAとB1が類似プロフィールを示した。4)動作過程は、ジーンズとジャージにおいて着衣時に違いが見られた。5)4タイプのはき始め・脱ぎ始める足はいずれにおいても使われる側が定まっており、前回の結果と一致していた。